

群馬県衛生環境研究所・食品安全検査センター 令和4年度 業績発表会プログラム

開会 13:30

開会のあいさつ

衛生環境研究所長 猿木 信裕

<衛生環境研究所（環境）> 13:35～14:10

座長：衛生環境研究所 主席研究員（水環境係長） 田子 博

1. 群馬県内の河川中マイクロプラスチックの調査結果について

水環境係 八木 千聖

河川中のマイクロプラスチック（MP）について、利根川の上流・中流・下流（全4地点）で夏季と冬季に調査を行ったので、その結果を報告する。また、下流2地点間にある利根大堰が、MP数密度及びMPの種類に与える影響についても調査したので、併せて報告する。

2. 光化学オキシダントとの関連に着目した揮発性有機化合物調査について

大気環境係 坂本 祥一

群馬県では光化学オキシダント（Ox）が高濃度化しやすく健康被害が懸念される。原因物質のうち揮発性有機化合物（VOC）は工場などの他に植物からも放出され、その成分は様々でありOx生成のしやすさも成分ごとに異なる。そこでOx生成に寄与する成分を探るため、県内のVOC組成を調査した。

<衛生環境研究所（感染症・共同研究）> 14:10～14:40

座長：衛生環境研究所 主席研究員（研究企画係長） 塩野 雅孝

3. 2022年に検出された新型コロナウイルスゲノム解析結果について

保健科学係 久保田 莉菜

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症は、何度も変異を繰り返し社会的に大きな影響を与えている。2022年には、世界中でオミクロン株が主流となり大きな流行を繰り返した。本発表では、2022年に群馬県で検出された新型コロナウイルスのゲノム解析結果について報告する。

4. 温浴施設における衛生管理方法に関する検討

株式会社 ヤマト 住谷 敬太

温浴施設の循環式浴槽で使用されているろ過器は、レジオネラ属菌の汚染源となりやすいことから、高濃度塩素による消毒が推奨されている。今回、高濃度塩素の代替となるものとして低濃度電解オゾン水に着目し、ろ過器を毎日1回消毒することによる効果を検証した。

<食品安全検査センター> 14:40～14:55

座長：食品安全検査センター 主席研究員（残留農薬検査係長） 庄司 正

5. 群馬県内に流通している加工食品のアレルゲン「大豆」の表示及び含有量の実態調査

食品・医薬品検査係 大島 裕之

大豆は様々な食品に含まれている。アレルギー患者とその家族にとって、大豆を完全に除去するのは難しいため、食品中の含有量を知ることが重要となる。大豆のアレルゲン表示の実態が不明であったため、県内に流通する加工食品の表示及び含有量を調査した。

閉会のあいさつ

食品安全検査センター所長 丸山 章代

閉会 15:00（予定）